

# 平成30年4月定例教育委員会議事録

(白石町教育委員会会議規則第16条及び第17条の規定により作成)

- 1 日 時 平成30年4月24日(火) 午前10時00分  
役場3階 会議室4
- 2 出席委員 北村教育長 稲佐委員 下田委員 松尾委員 堤委員
- 3 事務局職員 吉岡学校教育課長 千布生涯学習課長  
谷崎学校教育課課長補佐 渡部生涯学習課課長補佐  
石橋主任指導主事 梅木指導主事  
原学校教育係長 川畑庶務係長 永尾学校給食係長
- 4 前回議事録の承認  
3月定例教育委員会の会議録 【原案どおり承認】
  - 5 教育長の報告 別紙資料のとおり
- 6 会議に付した議案  
付議第10号 各小中学校教務主任等の任命について  
付議第11号 学校統合について
- 7 動議の提出者 なし
- 8 議事の概要 別紙資料のとおり
- 9 議決事項 付議第10号から付議第11号すべて議決
- 10 その他
  - ・事務局からの報告
  - ・傍聴者 なし

1 開 会 9:54

吉岡課長

2 前回議事録の承認 9:55

3月定例教育委員会の会議録を資料により説明

**委員全員承認**

3 教育長の報告 9:55

4月もあっという間に下旬となり、本日は前線の通過により、今後天候の荒れが心配されるところで、下校等への注意喚起も朝行ったところです。たいしたことなければと思っております。

また、本日は、ようやくではありませんが、白石町の道の駅の地鎮祭が午後から計画されており、いよいよ、動き出すということになってきます。

(前回以降の主な動向)

3/24 朝倉市立松末小学校門柱返還式

新聞報道等もあっておりましたが、朝倉市の松末小学校へ門柱返還式に出向きました。本当に歓待を受けまして、感激もしたところです。閉校になって、新しい学校に合併される予定ですけど、まだ、お二人見つかってないということで、まだまだ、被災か所がそのままというところが見受けられました。

4/10 中学校入学式

4/11 小学校入学式

小中学校の入学式へは、ご参加いただきありがとうございました。人数等示していますが、中学校全体で前年度比3人減、小学校が9人の減です。小学校で一番少なかったのが、六角小学校の13名というのがあり、女の子が3名しかいないというような、少し寂しいですけどこういうような状況です。

4/22 歌垣春まつり

先週日曜日に歌垣の春まつりがありました。非常に好天で、主催者発表5,000名ということでした。

(問題行動等報告)

(1) 問題行動

問題行動等の月例報告が年度分まとまりました。問題行動につきましては、小中合わせて1件のみでした。本当におかげさまで。1件は小学校6年生の火遊びでした。

(2) いじめ問題

「いじめ」については、別添の資料をご参照ください。小学校で13件、中学校で8件、報告を受けました。その中で中学校は、全ての事案解消済みです。解消といいますのは、3か月経過観察ということです。小学校については、まだ2月、3月発生分がありましたので、解消の報告はまだ受けておりませんが、幸いにもどちらについても、その後、悪い方向に発展するということは起こってないようです。昨年度報告がなかった学校が3校あります。その3校につきましては、本当になのかということ、もう一度精査をしていただきたいというお願いを校長会でしております。その中で、「いじめの定義」というのが、文部科学省から示されております。こういう風にいじめ対策防止法の中で、定義が示されてますけど、この定義に乗っ取ってということで、色々な思惑を入れないということです。ちょっと心配されるのが、これまで「いじめの定義」が変遷しておりますので、ひょっとしたら学校独自で、一過性だからとか、あるいは、たいした程度ではないからとかいうことで、独自の基準というのがあるって、報告されてないというのがあるはしないか？独自の基準というのはやめて、いずれにしても子どもの困り感、いじめられたという意識を持っているのならば、程度の問題とか関係なくて報告をしてください。ちゃんとそのことについての対応をしてくださいということで、お願いをしたところです。いずれにしましても、これをきっかけに不登校になるとか、あるいは最悪自殺とかマスコミ等でも何件かあってますけど、こういうことに発展しなくてよかったなあと思いますけど、いずれにしましても、こういう行為が人として問題だということを子どもたちが気付くように、そういう問題意識を持つようにという、そういう学校風といいますか、そういうのを醸成しなければならないということです。そこで、今年度お願いしているのが、是非学校で、児童会、生徒会等で「いじめ撲滅宣言」仮称ですけど、その名称でなくてはならないということではありませんが、自分たちの学校から、いじめで泣くような友達を作らないというような、「いじめ撲滅宣言」を立ち上げてくださいというお願いをしているところです。それから、前回、28年度に示した資料ですけど、以前にも申しましたが「いじめをしてはだめですよ。」という指導では、子どもたちには抜かりません。というのは、「いじめ」とは何かというのが非常に曖昧だということです。「行為」か「意識」か？ですから、子どもからは、「いじめつもりではありませんでした。」という発言が、指導者の側からは、「いじめだとは思ってありませんでした。単なる喧嘩だと思ってました。」というような事後の反省がなされるわけです。ですから「行為」か「意識」かというところですけども、いずれにしても関係性の問題で、子どもたちが悩みを持っているのであれば、「どうしたんだ」という指導がまず必要だろうというようなことです。

これも校長会の方で繰り返し、今後も言っていきたいと思っているところです。

### (3) 不登校

最終的に小学校で完全不登校の児童がお一人、6年生男子です。それから、中学校で5名、完全不登校でした。中学校の5名は、進路の確定はすべてできております。6年生の子は、中学校に進学しておりますけど、今のところ何とか頑張っけてやれているようです。町としましても、問題行動は1件と報告をしましたが、不登校についてはちょっと、かなりの数が出ていますので要因は色々ありますけれど、やっぱり豊かな人間関係というのが、生徒指導でも一番の目標でもありますし、豊かな関係性の構築ということ。それから、少々のトラブルは、頑張っけて乗り越えていくというような逞しさ、等々を家庭としっかり連携をしてということで、資料に不登校支援と未然防止ということで基本的なことをまとめております。そこに起こしているようなこと、特に「コピーングスキル」というのが、学校には求められております。それから、とにかくキーワードとして、いかに早く対応するかということ。 「月3日の欠席管理」ということで、どんな理由であれ月3日休んだら、とにかくきちっくと対応をしようということ。 「あの子は今休んでますけど、そのうち出てきますよ」というのが、ズルズル、ズルズルと休んでしまうきっかけになっているようです。 こういったところを確認していきたいと思っています。併せてスクールカウンセラーも「あい」の対応もほとんどが、対処療法しかできておりませんので、根本は、色々なトラブルが自分の前に起こる。それを大小に関わらず自分で、ちゃんと向き合っけて、乗り越えていくという小さいころからの体験の積み重ねです。やはり、そういうことしかないかなあと思って、今年、生涯学習課の予算ですけど保育園と幼稚園の9園と小学校で、「子育ての学びの会」をとりあえず3年間、立ち上げました。講師の方を呼んで講演という、そういう堅苦しいのではなくて、特に孤立をされている若い親さんあたりについては、「心配しなくていいよ、うちもそうだったよ」と、そういう会を持てればと思っけております。委員の皆さん方も、もし、そういう幼児教育の面で講師の方の心当たりがありましたら、是非教えていただければと思っけてます。よろしくお願ひします。

(杵西・藤津地区教育長会より)

### (1) 杵西・藤津地域地教委連絡協議会総会

教委連絡協議会総会5月21日月曜日に決まりました。正式な案内はまだですが予定をお願いします。もし御都合等あられましたら早めにご連絡をお願いします。川副さんという武雄市の学芸員の方が、幕末維新博も今あっけておりますので、それに絡めてお話しをしていただこうと計画がなされてますの

で、どうぞ予定をしておいてください。

## (2) 教職員人事異動の概要

別添資料に本年度の人事異動のまとめということで、小中学校の異動一覧をお付けしております。それから、人事異動の交流の実績ということでご覧ください。この中で、これまでになく特徴的なものは、地域間交流の小学校の「藤津へ」というのが今までになく多いです。ですから、これだけ交流が進んだということで、今年度から西部一つということで、これまで異動も、事務所は一緒になったのですが藤津と杵西が昔の事務所のままの動きでした。今年度からこれを一緒にとということで、こういう動きになりました。藤津にたくさん動いていただくということは、よそからもたくさん入ってきていただいております。白石町は人気があり佐賀市等から入ってきていただいておりますが、そこへ今年度は藤津から入っていただきました。伊万里市が端っこで中々行っていただけませんでした。動いていただく動きが出来上がりました。小学校の欠員が全県で280くらいありまして、白石町もどうなるのかということですが、石橋主任指導主事が実務をとってくれております。ただ、今後小学校の欠員の不足というのは全県的な課題になるようです。白石町も優秀な方が他市町でずいぶん頑張ってくださいまして、白石町に戻ってきていただけませんかという働きかけもしていかなければいけないかなあと思っているところです。

## (3) 県教育施策実施計画

資料を付けておりますが、触れませんので後もってご参照をお願いいたします。

## (4) 学校訪問

学校訪問です。また、正式には連絡をいたしますけど、今年度教職員課訪問が白石小、有明東小、有明南小の3校。これは、教育委員さん方は、関係ございません。それから、事務所訪問が6月20日の有明西小学校から最終が11月27日の白石中学校まで予定されてます。今回、事務所訪問の変更がありまして。訪問の日程の中にこれまで組み込まれておりました研究授業あるいは代表授業、それに伴う午後の授業研究会、これを廃止するという事になっております。といいますのは、校内の授業研究が百数件、年間あっており、トータルで見てその支援が出来ているので、あえて学校訪問の時にそれを組み込む必要がないだろうとです。ですから、時間が早く終わるということとなりますが、昨年度申しておりますように教育委員さんについては、情報交換までお願いいたしますということで、午後の時間は引いていただくこととなります。白石町の学校訪問につきましても同様となりますけどよろしく

お願いします。町の訪問については、後日、連絡を差し上げることとなりますので、よろしくをお願いします。

(4) 研究指定

本町関係が、有明西小学校のユニバーサルデザイン教育、福富中学校の次期学習指導要領研究指定、これは数学です。数学科で研究をしてもらいます、昨年からです。それから、教育振興課関係で白石中学校校区、白石中学校と4小学校で活用力向上の指定事業。これが昨年度から頑張ってもらっています。それから、町単独で白石町教育研究会の委嘱で六角小学校が国語科、有明中学校が道徳と研究指定になっております。

(5) 生徒指導に関する事業一覧

このことで、特に加配をもらっているということは、白石は今回ありません。こういう生徒指導関係の事業が展開されているというのをご承知おきください。

(6) 通級指導教室の仮認定状況

全県下で6カ所増えてますが、白石町は現在どおりです。福富小と有明西小です。言語障害とLD/ADHDの2種と中学校でLD/ADHDの訪問指導ということで計画をされています。

(7) 交通事故発生状況

教職員の事故ですが、最終的に小中合わせて140件。昨年よりマイナス4件でしたが、春休みに本町は大きな交通事故が2件発生しました。1つは高速道路でのわき見運転でガードレールへの激突。一歩間違えればといったところですが。それから、信号待ちのところで、わき見のため慌ててブレーキとアクセルの踏み間違いによる追突。これも一歩間違えればということで、緊急通知を出して注意喚起を促したところです。

(コミュニティ・スクールの推進)

コミュニティ・スクールの推進を進めておりまして、町内の全校をスタートしてから、ちょうど3年目になって、3年スパンのまとめの時期という計画でおるところです。資料には、これまでの計画をまとめております。

(1) 校長先生の新たなマネジメント

コミュニティ・スクールは今までなかった校長先生のマネジメントであるというスタンスです。

(2) 学校運営協議会の権限

いわゆる地域や家庭と子どもたちの課題解決のために、しっかり連携協力を図るというそのマネジメントが新しく入ったということです。校長先生が主体です。学校運営協議会というのがどうしてもクローズアップされますが、学校運営協議会は、このマネジメントのアシストです。ですから、校

長先生が何も手をこまねいて、学校運営協議会にどうですかというのは、本来おかしな動きであって、そういう基本的なことを確認しておきたいと思います。

(3) 推進していく上で大切なこと

推進していく上での3つ。まず、①状況把握です。現在の子どもたちの状況はどうですかという、全ては実態把握からスタートということです。そして、②お互いに双方向。学校に地域や家庭が協力するのが当たり前という。こういう高みからのスタンスではなくて、やはり子どもたちも地域に出て地域の一員として関わると、そういうところから郷土を想う心とかも育まれていくと思います。それと一番肝心なのが③継続性です。どうしても、頑張られますので、打ち上げ花火的なことは極力よしてくださいと、続きませんと、研究指定でも何でもありませんので、やはり地域や家庭としっかり連携して子どもたちを育むというのは、ずーと続いていくことですので、何年間の研究指定ではありませんということですので、地道な継続ということで頑張りすぎないでくださいとお願いしております。

(4) 平成30年度（前年度より引き続き）

白石町内共通実践目標 <達成率95%以上>

町内でも具体的な実践目標をということで、大きく3つ。細かくは4つですが、そのことで、別添で実態調査の資料を準備してありますのでご覧ください。こういうコミュニティの動きをしていますが、いったい子どもたちは、どういう実態なのかということで、アンケートをとったものです。資料は、町全体のものです。もちろん、それぞれの学校のものもありますが、例えば家族への挨拶はどうですか？「よくやっています」、「やっています」というので80%くらいです。家の手伝い70%くらいです。その手伝いの内容とか宿題とか起こしていますが、この実態で、できれば95%くらいをめざしましょうという風な目標です。それぞれの学校で、この実態を見て、どうぞ家庭、地域で目標の共有化を図ってくださいと、「今こういう実態ですよ。」ですから、今年1年で例えば「挨拶をあと10%くらい伸ばしましょう」ということで、そのためにはやはり、子どもばかりではなくて、大人から率先してやらないとなかなか身につけませんよ、というようなことあたりを共有してもらいたいと思っています。なぜ家庭でのあいさつをこういう風に共通実践目標にしているかというのは、やはりあらゆる関係の中で、親子関係が1番、上司との関係、恋愛関係、友達関係色々ありますが、親子関係が1番と思います。というのは、切れないからです。やはり親子の間にキチッと挨拶が交わせないで、どうして他人とキチッとした関係が築けるのか、真の関係が深い関係が。そういうところなんです。ここの冷え込みは大きな問題だと思います。それ

から、お手伝いです。お手伝いも、70%と書いてますが、なかなかできていません。以前から言っていますが、自分の時間を自分のいいように使うという状況が、非常に増えつつありますので、やはり家族の一員として、ちょっと時間を割いて貢献しよう。というそのことが、自己肯定感、存在感、自信、そういうものにつながると思います。やはり人の役に立っているということが、自己肯定感の最高のものだと思います。貢献感です。やはり、「ありがとう。あなたのおかげで助かったよ。」というその一言が自信に繋がっていくのではと思っておりますので、家でどんな小さなことでもいいから役割を持って、家族の一員として頑張ってくれたらなという思いです。それぞれ学校で、実態が違うようですので、それぞれ具体的な目標を掲げて頑張ってもらえればなあと思っております。

#### (学力向上について)

これは、学校、特に義務制では、変わらない命題です。校長会でも資料をお配りしましたが、色々なことをしないとイケませんが、やはり毎日、毎日の授業の1時間、1時間の充実を図るしかない。これがまず1番だろうと思います。ICTの利用もあります。電子黒板の利用もあります。色々ありますけど、やはり1時間の授業をいかに充実させるかということで、授業力のある教師集団になりましょうということで、当たり前のことですが呼びかけをいたしました。

#### (生徒指導について)

生徒指導についても、具体的には、問題行動であったり、いじめであったり、具体的な事案に対応していかなければイケませんが、やはり、基礎、基本に則ってということで、特に生徒指導の3つの目標というのがあります。一つは、「豊かな人間関係を基盤として」というのがあります。2番目に、「子どもたちの自己存在感を与える」こと。学校で居場所があるということです。そして、3番目に、「自己決定の場を与える。」自分で決めるということです。この3つが生徒指導の大きな目標です。このことを常に意識していただきたい。というのと、資料を付けておりますが、よく教育の不易の部分という言葉が出てきますが、何が不易かということをお我々は共有できているのだろうかという不安が価値の多様化の中であります。ですから、資料に書いていることは、当たり前のことと思っておりますが、果たしてみんなそうであろうかということで、確認の意味で起こしました。特に3番目に関することです。「克己と対処」ということですが、やはり、「嫌なことから逃げない。」「真正面から取り組む」、「目の前に迫っている嫌な課題をごまかしたり放り出したりしない」というようなことの積み重ね、訓練、こういったあたりが果たしてどうなんだろうかと思うところがあって、あえて起こしたところで

す。ひょっとしたらもう、小さい子は、親が肩代わりしている、あるいは、もう最初から課題をとってしまうとか、目の前のハードルをもう最初からとってしまうとか、とそういうこともあってはしないかということで、本当に不易の部分の確認の意味で起こしました。

(白石町あいさつ運動「あいさつのWA! 拡大中」について)

企画の方で「あいさつのWA! 拡大プロジェクト」ということで、あいさつの溢れる白石町にということで頑張ってください。のぼりも作っていただいて、特にケーブルテレビへの出演です。もう結構これまでも、色々な団体が出ていただいていますし、おおどぼう倶楽部も出ていただいております。こういった中で、学校も是非この雰囲気醸成のために全校、あるいは学年、学級、部活単位というような形で、積極的に出てくださいますとあいさつのWAを広げるような雰囲気を醸成しましょうということをお願いしております。

(携帯電話やスマートフォン等の使用に係る注意喚起)

これは、杵島郡内の3つの教育委員会、江北、大町、と私どもと郡P連の合同で、ようやく携帯やスマホに対する注意喚起のメッセージが出来ましたので、全小中学校で保護者に配っております。「買わせないでください。」とそういう権限ありませんので、やはり持たせるのであれば、キチッとルールを考えて、それからフィルタリング、アダルト関係は見れないとか、いかがわしい情報は手に入らないとか、フィルタリングがまだ全体の2割くらいです。ルールがまだ、半分もいってません。県の中学校の生徒指導連盟で、全県的な実態調査がありましたが、その中でも1割は、平日でも3時間以上。ご飯を食べるときも風呂に入る時も、寝るときも持ったままという、もう依存です。そうすると当然、朝起きれない状況が発生してくるわけで、そのための注意喚起のチラシがようやくできました。これは、先日の駐在員会、公民館長会でも配布して、「どうぞこういう風にして動いていますので、十分ご承知おきください。」という話をしたところです。よろしく願いいたします。

#### 4 付議事項の協議 10:34～

##### 付議第10号

##### 各小中学校教務主任等の任命について

川畑係長：資料に沿って詳細説明。

北村教育長：主任等についての説明がありました。町の方から任命書を配布する方です。

**委員全員承認 (付議第10号)**

## 付議第11号

### 学校統合について

北村教育長：この件につきましては、教育委員会で進めているということです。前回同様、教育委員会終了後の検討会の中で意見交換をさせていただきたいと思います。

### 委員全員承認（付議第11号）

#### 5 その他 10：38～

##### （1）平成30年度SSW（スクールソーシャルワーカー）委嘱について

梅木指導主事：資料に沿って説明。

稲佐委員：スクールソーシャルワーカーの出番といいますか、会議等は定期的になされていると思いますが、例えば事例等があった場合、例えばA中学校で不登校者が出始めたとか、そういうことがあった時は、だいたい校内の教育相談担当者あたりが中心となって、ケース会議とか開くとかいうことになる訳ですか。そういう時に例えばスクールソーシャルワーカーを呼んで、情報交換、共有化するような機会はあまりされてないでしょ？どちらかと言ったら皆がよってやるというようなことで、突発的なことがあった時に呼んでということは、なされていないのではないのでしょうか。

梅木指導主事：中島先生の場合が、まず、3市町を兼ねておられます。小城、白石、武雄ですね。ですので、昨年度の白石中学校の例でいうと教育相談部会の入っている曜日を固定して、大体来てもらうような感じで、その定期的に、1週間に1回くらいだったと思いますが、そこで会議をしていただくという形が昨年度の中心でした。ですので、突発的に起こった時にすぐにということになる、他の市町との絡みも含めて确实と言えなかったのが現状です。

稲佐委員：それはですよ、例えば先生の都合によって出来ないということで、かつて私がやっている頃は、学校長から電話がありまして、パッと学校現場に行って、そして放課後の話し合いに私も加わって、対策を立てたりしていました。あるいは、私が家庭訪問したりしていました。何か、即対応するような体制を作っておかないと、丸々先生の都合が悪いからと言って、「今日はダメよ。」と延ばし延ばし、していたらダラダラとなってくるので、できれば緊急性を必要とする場合は、即対応に当たってほしいなという希望で

す。

梅木指導主事：町の採用の方には、是非何かあった時には連絡をして欲しいということ、教育相談部会の方ではお願いしたいと考えていて、中島先生に限らずいらっしゃるので、「今からあるので。」とか「議題があるので。」ということで、学校に行きやすい状況とか横の繋がり、広がりを見るのが今年の課題かなあと今、考えています。

稲佐委員：だから、担当者が、先ほど教育長が言ったように、ダラッと延ばさず、3日休んだらパッと対応するような、教育相談担当になる方がキチッと目配り、気配りをしないと「2、3日様子見ましょう。」としていたら、もう手遅れになります。ですから、そういったことも含めて各学校へ示唆を与えてもらったと思います。

下田委員：ずっと以前にも言ったかと思いますが、大変なことはよくわかっていますが、やはり教育委員会に常駐のスクールカウンセラーが欲しいという思いは、ずーっと続いてまして、子どもたちがいつでも相談できる。すぐ飛んで行ってあげられる。というような環境が望ましいなという風に思います。

原 係長：スクールカウンセラーについて？スクールソーシャルワーカーではなくてですか。

下田委員：スクールカウンセラーもスクールソーシャルワーカーも兼ねて出来るような人達です。

北村教育長：文科省が示しているような、チーム学校の中には、そういう構想が盛り込まれています。

下田委員：現実、子どもたちが相談したいときに相談できない。しかし、常駐がいらっしゃると学校にすぐに飛んで行って対応していただけるという環境が出来るのではないかなあとと思います。

梅木指導主事：連絡していただけるようにと、いつも思って、特に家庭訪問とかですね、なかなか学校現場が行けない、出来ない時間帯にも顔を出して繋いでいただくことを1回目の連絡会の時には担当にもお願いをして、是非学校側にも連絡を入れてくださいということ、今確認しているところです。

堤 委員：いじめとかの時にどうしても子供さん自体が、親に知られたくない、先生に知られたくないとか、必ず意識としてあると思いますが、出来るだけばれないようにしたい。そこを、どう拾ってあげるといえるか、そういう枠組みというのは何かありますか。例えば、ホットラインといえるか、ここに連絡すればすぐに動いてくれる。例えば教育委員会のこの番号に電話すればすぐ動いてくれるとい

う。身近な人こそやはり知られたくないという意識が多分働くと思います。まだ、親とか友達とか先生に言う子はまだいいのですが、言わない子がそのまま、最悪の事態にということがあり得ると思いますので、そういう枠組みも一つ用意しておいた方がいいのか、それは例えば先ほどのソーシャルワーカーの人を常駐させるというのも一つの策だと思うのですが、それが出来ればいいのですが、なかなか、一般的にも難しいところはあるので、そういう枠組みも一つ考えられてもいいかなあとと思います。他の市町は、ラインとかでここにラインしたらホットラインとかになっているとかあるところもあるみたいなので。

北村教育長：今のところ、今おっしゃったようなシステムは構築できてないです。今のことで、例えばよそでは、ラインのソフト等もありますが、ちょっとそれだとまた、他の弊害が出るということで慎重にということですけど、やはり、今のところ頻繁なアンケート、無記名のアンケート、それから他の子たちも傍観者ではなくて気付く、「おかしいのではないかな。」と当事者も含めて、周りの子たちの気付き等も拾うという実践ですね。

石橋主任指導主事：教育委員会に直通の「いのちの相談窓口」というのは、設けてはいますが。

堤 委員：直通がまた、相談しやすいかどうかというと別だと思えますが。

石橋主任指導主事：実際に業務的な連絡があっていたりして、その辺の位置づけがはっきりしていないなあという部分もありますが、保護者からの相談でありますとか、児童生徒からは、ちょっと受けた記憶が私はありません。

堤 委員：おそらく親に知られたくないという意識は働くと思いますので。

石橋主任指導主事：相談としては、数件ですねここ2年で担当として受けたということはいかがでしょうか。

堤 委員：親に知られたくない子どもたちに知られたくない部分。

石橋主任指導主事：そうですね。子どもたちとのホットラインという意味では、まだまだ、ちょっと検討の余地があるというような状況です。

北村教育長：いのちの電話というのが、相談電話というのがあるのだけでも、そこをもう少し機能させるという工夫は出来そうですね、なかなか、今活用できてないです。

稲佐委員：各学校いのちの電話のカードを配ってはいます。

(委員全員承諾)

(2) 平成30年度スクールカウンセラー委嘱について

原 係長：資料に沿って説明。

(委員全員承諾)

(3) 春季運動会・体育祭の出席割振り

川畑係長：資料に沿って説明。

堤 委員：これは、朝出ればいいということでしょうか。

松尾委員：午前中。

川畑係長：だいたい午前中です。

堤 委員：私は保護者なんですけどどうでしょうか？子供が小中いますので、中学校はいいのですが。

川畑係長：松尾委員さん交代でよろしいでしょうか？

松尾委員：私は大丈夫です。

川畑係長：輪番としておりますが、保護者である間は固定でもよければ来年度からも固定で調整ということでもいいでしょうか。

稲佐委員：別にかまいません。

川畑係長：それでは、来年度からも調整をさせていただきます。

(委員全員承諾)

(4) 教育委員会事務局組織一覧

川畑係長：資料に沿って説明。

(委員全員承諾)

(5) 各小中学校職員一覧

川畑係長：資料に沿って説明。

(委員全員承諾)

(6) 高等学校全国大会出場助成金交付要綱の一部改正について

渡部課長補佐：資料に沿って説明。

稲佐委員：白石高校がいわゆる杵島商業と統合して、校名が白石高校となったわけですが、助成金の額ですが、これは別に変わってないわけですか。

渡部課長補佐：助成金の額は、登録部員として1人当たり2万円、ただし、総額が今回上限を20万円として加えさせていただいております。

稲佐委員：ということは、合併というか一緒になった分も含めてですね。

渡部課長補佐：はい。そうです。

(委員全員承諾)

(7) 5月行事予定表

川畑係長：資料に沿って説明。

(委員全員承諾)

(8) その他

稲佐委員：先ほど、教育長さんがおっしゃられたように、資料にも示されていますが、「内的原理」いわゆる不易とするところの精神的な支えとなるところですが、これはやはり子どもたちの心を確立させるためには、この6項目示されているわけですが、特に私は、この5番と6番は、今の青少年、あるいは若者たちにも是非今後浸透させていきたいなあと考えております。例えば、「生かされている」とか「感謝」とか、そういったことが、家庭教育では、なかなかされていない現状がありますので、やはり何といたっても家庭教育をキチンとしていけばそうないと思います。私の檀家さんに伊万里の方の中学校に努めている先生がいらっしゃいますけど、その方とも話しましたが、その学校は、少し荒れてなかなか大変だそうです。ですから、白石が先ほど人気と言われたように、本当に白石は落ち着いた学校ばかりだと思いますので、やはり、そうなしてしまったら、なかなか、元に戻すのは4、5年かかるわけです。ですから、そういった面で、「何もないからいい。」ではなくて、こういったことを随時学校の先生方をはじめ、また、家庭教育の一環として促すことによって未然にそれが防げると思いますので、これは非常に「内的原理」と書いてありますが、まさにこれが必要だなあとということを感じました。

堤 委員：先日歌垣のまつりの方に行ってきたんですが、三十一文字コンテストの毎年度の入賞者の金属パネルを設置してあると思います。数年前の分で、数年前の分のパネルの入賞者の中の一番左端に書かれているところの、隣接市町の小学生の女の子の名前のところにビス穴がきていて、そこに穴が開いています。今中学生くらいだと思いますが、隣接市町の子なので多分見に来ていると思います。ちょっとかわいそうかなあという感じなので、一応修正するなどしたうえで、さらにアポイントが取れたらきちんと、多分見に来られてどう思われているのか分かりませんが、ちょっとそれが気になっていたのでお願いします。

千布課長：ありがとうございます。

松尾委員：私が昨日、福富中学校のPTA総会に出席いたしまして、祝辞をということだったのですが、今、この時期統合ですとか、例えば福富の場合が、小中学校の一貫教育がなくなったとかいうので、言葉に悩みました。今後、祝辞とか言わないといけない時があれば、もしよかったら町の方で何か土台を作っていただければ、非常にありがたいなあと、どこまでこちらが話していいかわかりませんし、そういうこともご検討いただければと思います。

吉岡課長：はい。ご連絡いただければ、キチッと作る。場合によっては、このあたりの概略とかは準備いたします。

松尾委員：助かります。よろしく願いいたします。

下田委員：もう、教育長もよくわかっていらっしゃるのだと思いますが、今回、いじめ撲滅にもっと前進して取り組んでいただけるということで、子どもたちの心を強くしようと、子どもたちの心を育てようと言われて、取り組みもありますが、今まで出会ってきた先生方の中でいじめとか不登校に対する思いへの温度差を感じています。先生方に対する指導も併せてお願いしたいと思います。

北村教育長：はい。ありがとうございます。今のことは、先日の校長会でも確認しましたが、不登校の要因として学校の要因を絶対作らないということを確認しました。残念ながら、心無い言葉遣い、ひどい叱責、恫喝とまではいきませんが、そういうものなども全くないという訳ではありません。ですから、そういったことについても十分配慮しておかないと、先生方の対応のまずさで、こういう状況になるということが、絶対ないようにということで、もう一度、まさに信用あつての教育活動ですので、見直しをお願いしたいということをお願いしたところです。こういうのは、繰り返しですね、つい自分の行為は棚に上げというようなことが、どうしても発生しますので繰り返し自制といいますか、そういうことが必要だと思っております。

6 閉 会 11:06

吉岡課長